



プロフィール

民主党・県民ネットワーク所属

1974年8月15日 大津市生まれ
唐崎小、唐崎中、膳所高卒業
龍谷大学法学部政治学科卒業
同志社大学大学院総合政策科学研究科修了

民主党滋賀県総支部連合会 青年局長
滋賀県議会議員（大津市選挙区）
大津市消防団唐崎分団 班長
唐崎学区体育振興会 常任理事

唐崎学区スポーツ少年団 事務局
大津子ども環境探偵団エコーリーダー 幹事
滋賀県トランポリン協会 会長
一般社団法人大津青年会議所 専務理事

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-9 e-mail mail@narinari.net URL http://www.narinari.net Twitter @narinari_net

成田セイリウから、みなさまへのお願い

- 滋賀県・大津市に関するご質問、ご意見をお寄せください。
- 活動や報告についてのご意見、ご感想をお待ちしております。

- 成田セイリウ後援会に入会いただくと、定期的に県議会活動レポートを送付いたします。ぜひともご参加ください。
- ボランティアスタッフを募集しております。

日ごろは皆様の温かいご支援を頂きながら、元気に仕事をさせて頂いておりますことを心から感謝申し上げます。9月定例会が閉会しました。いじめ対策や地域の防災への取り組みに関して、これまで以上に議論をされた定例会でありました。

さて、今年度は、滋賀県議会におきまして、防災対策特別委員長を拝命し、滋賀県地域防災計画にむけた議論を行っております。とりわけ、昨年度に引き続き、原子力災害編の見直しについて、さらに今年度からは地震災害編の見直しが進められています。昨年の東日本大震災以降、防災意識が高まる中で、大津においても、8月中旬に、大雨による被害が生じております。いつ起こるかわからない災害に対し、安心・安全の滋賀になるため、備えていかなければなりません。

未来への責任ある政治の実現にむけて全力で取り組んで参ります。引き続きのご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

滋賀県議会議員 成田 政隆

滋賀県の防災対策

滋賀県地域防災計画の見直しについて

● 原子力災害対策編

広域的応援等連携体制

滋賀県の協力応援体制、関西広域連合との連携

緊急被ばく医療（活動）計画

被ばく医療体制の整備、安定ヨウ素剤服用

救助・救急対策計画

救助・救急活動用資機材の整備

警備および交通対策計画

交通管理体制の整備、災害警備対策

琵琶湖への環境リスクの検討

放射性セシウム等に係る琵琶湖水質などの影響予測調査

● 震災対策編

東日本大震災や南海トラフの影響を踏まえ、県においてもできる対策から順次修正を行う

震度、液化化や人的・物的被害などの被害予測調査の基礎となる滋賀県域の地盤構造モデルを構築

地先の安全度マップの公表について

大河川だけでなく中小河川や農業排水など身近な水路の氾濫も考慮し、流域内の各地点における降雨規模別の浸水深や流体力、家屋水没等の被害発生頻度を地図で表現したものです。

※滋賀県流域治水政策室ホームページにてPDF図面を掲載



防災対策特別委員会
県内調査
防災ヘリコプター（琵琶）



防災対策特別委員会
県外調査
埼玉県危機管理防災センター



大津市南部地域豪雨による被害状況を現地調査

交通政策について

▶ **成田** 現在、2030年頃の滋賀の目指すべき交通の姿を展望した新しい交通基本構想である「滋賀交通ビジョン」の原案がまもなくだされるところである。滋賀交通ビジョンの策定により、滋賀県はどのような交通の姿を目指しているのか？



▶ **知事** 県民の生活を支える重要な社会基盤として、すべての人にとって使いやすい円滑な移動を実現する交通体系の構築、地球温暖化対策としての低炭素型交通体系の構築。その中で、地域交通という観点からは、高齢者や子どもなど自動車を運転しない人々が日常生活における移動に支障をきたすことのないよう、鉄道、バスなど様々な方法によって、県全域にわたり何らかの交通手段が確保された状態を目指していく。

▶ **成田** 滋賀交通ビジョンにおいて、交通弱者の交通機関を守る観点からどのような位置づけをされ、地域交通を守っていくとされているのか？

▶ **土木交通部長** 高齢者や子どもなど自動車を運転しない人々が、日常生活における移動手段に不自由し「交通弱者」となることのないようにすることが、行政の重要な役割と認識をしている。基幹交通としての鉄道と、これを補完し地域内ネットワークを形成するバス交通、また、自治体が運行しますコミュニティバスや、低密度・少量の輸送に対応したデマンドバスあるいはデマンドタクシー等の様々な方法によって「交通弱者」を生み出さない地域交通が持続的に運行されるよう、県としてできる限りの支援をしてまいりたい。

いじめ対策について

▶ **成田** 子どもたち同士においても、常日頃からの学校におけるいじめをはじめ、人権問題を話し合う場がもっと必要でないか。色々な悩みを持っており、また色々な見方・考え方があるなど、お互いに認めあう機会の提供が大切である。それが子ども同士の中で、なんでも言える仲間づくりにつながり、日常的な人間関係の醸成に役立つといえる。子どもを孤立させないためにはどうすればいいのかわかりと考えていかなければならない。子どもが互いに育つ、人間関係づくりに向けて、今後どのような取り組みを行っていくのか？

▶ **教育長** なによりも、子どもたちの自分も大切に、他人も大切にする心を育てることが大変重要である。その為に、子ども達が授業の中で教え合い、学び合う活動を行い、子ども同士の相互理解を深め、お互いを支え合い、お互いで高めあう教育活動を推進する。また異年齢集団による活動や児童会・生徒会活動を通じて、子どもの人間関係づくりの推進、また一つのことを協働で行うことによって子どもの自己指導力、協働の力を育成することが大切である。

▶ **成田** 滋賀県子ども条例に関して、見直す時期にきているのではないかと。今一度、子どもの権利条約の理念のもと、子どもの権利保障を総合的に規定していく必要があると考えるが、知事の所見は？

▶ **知事** 滋賀県子ども条例は、子どもが人権を尊重され夢を持って健やかに育ち、子どもを安心して育てることが出来る環境づくりについて、基本理念を定め、県等の責務を明らかにするとともに、県の施策の基本となる事項を定めた条例。13条でいじめに関してふれているが、今後いじめ問題に対する恒久的な対策を検討する中では、子ども条例の基本理念を踏まえながら、個別の課題に対応した条例の制定も視野に入れて検討が必要と考えている。



厚生・産業常任委員会 県内調査
おうみ若者未来サポートセンター



自治体青年政策ネットワーク研修会
～世代間格差と世代内格差の現状～



大津子ども環境探偵団 船上探偵
環境学習船 megumi に乗り琵琶湖調査



議会改革検討委員会
開かれた議会に向けて！



県立聾話学校 会派県内調査
インターン生三名も参加。